

第2回 府中市保健計画評価推進協議会 議事録

開催日時 平成25年1月10日(木)

午後2時～午後3時45分

開催場所 府中市保健センター分館 3階研修室

出席者 委員 { 杉田廣己(医療分野・府中市歯科医師会長)
田中勝彦(企業職域分野・(有)柏屋 取締役社長 ほか)
塚原洋子(保健分野・東京都小児保健協会理事 ほか)
都筑康夫(医療分野・府中市医師会長)
原 智子(公募委員・NPO法人アン・スリール理事長)
増田和貴(行政分野・多摩府中保健所 保健対策課長)

事務局 { 芦川福祉保健部長
松下健康推進課長
鈴木健康推進課長補佐・・・司会
横道健康づくり担当副主幹
福嶋成人保健係長
神田保健師(成人保健係)
柳沼保健師(成人保健係)
荒木栄養士(成人保健係)
岡橋歯科衛生士(成人保健係)
中嶋事務員(成人保健係)・・・議事録作成係

事務局 開催宣言・配布資料の確認

※本協議会は原則公開となっているが、この時点で傍聴人はいないため、このまま進行するが、協議会中に傍聴希望の方が来所した場合は、会長に許可を諮った上で、傍聴可とした。最終的に、傍聴人はなしであった。

1 議事

(i) 第二次健康日本21について ※資料3・参考資料3を参照

事務局 健康日本21は、平成12年度より普及啓発、保健事業の効率的・一体的推進等を柱として9部門70項目設定し、12年間の計画で推進してきた。平成25年度からは、第二次健康日本21に基づく総合目標の策定に向け、各事業主体的に取り組んでいく必要がある。

府中市は平成17年度に健康ふちゅう21を策定し、平成26年度までの10年間の計画で推進している。平成25年度からは第二次健康日本21に基づく総合目標の作成に向け、各事業主体的に取り組んでいく必要がある。平成26年度中に第二次健康日本21に基づく健康ふちゅう21の次

計画を立案し、推進していきたい。

※東京都が作成している第二次健康推進プランが国の第二次健康日本21を反映していることから、都が作成した資料3を今回使用した。

委員 今後の国や都の計画の流れを踏まえ府中市の計画策定していくことについて、承知しました。

(2)平成24年度市民アンケート結果の分析・審議 資料1・2

事務局 平成24年実施のアンケート調査で実施した40問中(※資料1参照)、5項目について今回重点的に審議いただきたい。

資料2に基づき、5項目のアンケート集計結果を説明。

※市民アンケート実施条件

平成24年8月実施、18歳以上の市民を対象とし、無作為で3,000人抽出

※回答比率はパーセントで表示し、小数第2位は四捨五入しているため、合計して100パーセントとならない場合がある。

(以下、資料2を参照)

事務局 設問数が40項目と多いが、回答結果を受けて今後の市の考え方やアンケートにどのように生かしてい行くかというところから、事務局から5点に絞り、今回重点的に審議いただきたい。

全体的に肯定的な数値が上がっているが、経年的に頭打ちとなっている項目もあるので、各項目分析していただければと思う。

事務局は次のとおり分析・考察する。

- ・1ページ問8の生活習慣病予防については、「特に何もしていない」としている人の割合を減らしていくことが目標としており、今後も引き続き対応していきたい。
- ・3ページ問11の自己負担金について、74.4%は何らかの肯定をいただいているので、次回アンケートでは具体的な金額まで踏み込んで聞くことも考えていきたい。
- ・8ページ問20以下の食育に係る項目は、食育推進計画にもフィードバックしている。
- ・11ページの口の健康については、歯科事業に今後どのように反映していくのが効果的か考えていきたい。
- ・12ページ問39の緩和ケアは初めてアンケートをとったが、3～4割

程度が理解できていないという回答である。3、5年後等長期的な期間で見えていく必要があると考えている。

- 委員 事務局のご説明がありましたので、委員の皆さまからご意見いただきたい。
- 委員 自己負担金についての設問は、健（検）診費用額が一般的にいくら程度のものか記載が無い。その記載によっては、回答結果も変わるのではないかと。
- 委員 確かに一般的な健診費用や他市の状況など、市民には分からない。自己負担に対する市民イメージを問うにあたり、どのような記載とするか。
- 委員 今回肯定的な意見が74.4パーセントという数値が出ているが、回答項目の捉え方には個人差がある。
回答項目の「健診が受けやすくなるならば」「少しの負担なら」を、逆の見方をし、「健診が受けやすくなかった」「負担が少しではなかった」場合を考えると76.7パーセントが否定的な意見という見方、考え方もできる。それも踏まえ検討いただければと思う。
- 委員 各年代により生活状況全般における健診へのイメージが異なる。この結果数値をどう見るか。
- 委員 健（検）診費が有料であったとしても受診の必要性が高いことを、今後も積極的に周知した方がいい。
有料になる際、経済的弱者への対策も考慮可能であればした方がいいのではないかと。
- 委員 生活保護受給者、非課税世帯の受診状況は把握しているか。
- 事務局 40歳以上の方であれば、健康推進課で成人健康診査を実施しているため、受診者は把握している。非課税世帯については把握しておらず、難しい。
- 委員 府中市は無料で健診をやってくれるという市民の話を耳にしたことがある。無料から有料に変更となるのと、500円から1,000円に変更では心象が異なる。健（検）診費は具体的に幾らなのか。
- 事務局 費用は健（検）診種別によって異なる。
- 委員 自己負担をアンケートで問うならば、具体例が記載されていた方が回答し

やすい。記載がないと判断しがたい。

委員 健（検）診の種類や、また内容として検査項目があると思うが、ある特定の健（検）診から自己負担を求める等、東京都26市で申し合わせ等があり、府中市は無料実施しているということか。

事務局 費用について申し合わせは無いが、各種がん検診を例とすると、府中市では乳がん検診について自己負担頂いている。26市で見ると、概ね7割程度自己負担を設けている。全市金額は様々であるが、概ね2,000円程度である。

その他の検診については、10自治体程度で自己負担を実施しており、自己負担額は500円から1,500円程度と各自治体で金額を設定している。

委員 健（検）診を組み合わせて、自己負担額を設定しているのか。

事務局 健（検）診を組み合わせているのではなく、1つ1つの検診別に、各自治体で自己負担額を設定している。

委員 先のご意見にもあったが、ガンを心配する年代は、年齢が上がるほど多くなる。しかし検診種類によって勧奨年齢は異なるが、受診は若い世代から必要であり、必要性を周知することで、自己負担への市民の考え方も変わるのではないか。

委員 自己負担金について様々なご意見が出たが、他の項目についても活発なご意見をいただきたい。

委員 アンケート結果より、市民の健康に対する意識の向上が読み取れ、職員の方々の啓発活動の結果が反映された数値と思われる。事務局の今後の展望をお聞かせいただきたい。

事務局 1ページの間8の回答項目1から3については、生活習慣病予防意識の向上が読み取れるが、まだ50パーセントを超えていない項目がある。かかりつけ医の項目についても、100パーセントに近づけるため積極的な周知が必要だと考察する。喫煙、飲酒等の趣味・嗜好項目については、国や都の目標値と比較しながら考えていきたい。

委員 問8の「喫煙を控えている」とする割合が、前回23.6パーセントから今回22.8パーセントと下降している。

事務局 禁煙なされた方で、「控えている」とする項目にあえて丸をしなかった方もいたのではないかと推測する。

委員 各回答者の生活状況変化に伴う優先順位の変化、重要度の差もあり、統計調査の難しい点である。

委員 6・7ページ問14の元気体重について、データ数値だけ見ると女性はやせが増え、普通の人が減った結果である。

委員 1ページ問8の「特に何もしていない」と回答している方のその理由が分かるような事、例えば病気の有無、また年齢層はこの集計結果からは分からない。健康教育のターゲットとする年代の方が把握できる可能性もあり、分析の仕方を考えた方がよい。
同問8の自由記載で、「子ども、孫と遊び、時々世話をする」という回答があるが、これは生活習慣病予防に繋がり、また高齢者を孤立させず、高齢者から若年者は生活の知恵を学ぶことができる、ある意味高齢化社会におけるコミュニティの作りにも繋がる意見であると思った。

委員 「特に何もしていない人」とする年齢別割合の分析データはあるか。

事務局 今現在用意はないが集計可能である。

委員 歯科についてお話をさせていただくと、資料3 4ページの歯科口腔区分に記載の東京都の歯科保健目標「いい歯東京」とは、平成23年度から平成27年度における目標値であり、今回のアンケートもこれに準じて作成をしている。
資料2 11ページ問25以下の口の健康における結果数値も全般的に標準的数値だが、問25の自分の歯や歯肉など口の状況が「健康・まあ健康」と回答した割合が61.2パーセントである。前回より増加しているものの、問6の一般の健康状況についての問いでは85.4パーセントになっており、比較すると少ない。これに近づける必要がある。その他項目も含め今後も国や都の目標値達成への取組が求められる。

(以下、引き続き資料2を参照)

委員 11ページの間27で「8020(ハチマルニーマル)」について「知らな

かった」と回答した割合が多い印象だが、言われ始めたのはいつ頃だったか。現在はあまり聞かないので、知っている人が少なくなったのか。今後より周知が必要ではないか。

事務局 「8020(ハチマルニーマル)」という言葉については、20年以上前に言われ始めた言葉である。

「知っている」と回答している割合が52.8パーセントとなっているが、年代別に見ると、18歳～29歳は33.9パーセント、20代は39.3パーセント、30代は47.8パーセント、50代は54.2パーセント、60代は64.6パーセント、70代は51.6パーセントと若い世代は低い結果である。

「いい歯東京」では、「20歳以上」の認知度を上げるとしており、若い世代への周知が必要である。

委員 参考までに、都内で80歳以上で20本以上歯がある人の割合は、平成11年度で27パーセント、平成21年度で50.7パーセントというデータがあり増加傾向であると言える。

委員 1ページの間8の生活習慣の未改善項目についてはどうか。

委員 それに関連するが、2ページの間9の充実しているかの問いで、「あまりそう思わない」とする年代で、20代、80代が多い点が気になる。若年者の自殺の問題が注目されており、また今後は高齢者の心の対策についても、府中市でも注視していくべきだと思われる。

委員 平成24年のアンケート結果をふまえ、地域における高齢者という点においても、健康推進課だけではなく他課との連携を図っていく必要があるのではないか。

委員 6ページのご意見・ご要望の抜粋にもあるが、幾つか実施可能と思われる意見もある。出来る事から対応頂きたい。

委員 同ページで、半数以上の人々が「もっと運動をしたい」と思っている結果である。回答者がそれを実現できるような事業等を検討してみてはどうか。

委員 一般の方と元気いっぱいサポーターが関連して、設備が充実した府中において何らかの運動機会の獲得ができればと思う。
次回の市民アンケート、また市の今後の考え方で、本日出た意見を踏まえ

て事務局で検討、対応いただきたい。

(3)平成25・26年度のスケジュール及び平成25年度市民アンケートについて

事務局 ・平成25・26年度のスケジュールについて (※資料4参照)

平成25年度は、平成24年度と同様に市民アンケートを実施して、平成26年度の最終評価に向けて3回の協議会を実施をしたい。

平成26年度は、健康ふちゅう21の後期計画の最終計画と、次の計画の立案するため、5回程度の協議会開催を考えている。

・平成25年度市民アンケートについて (※資料5参照)

平成24年度に実施した40問から、基本設問として平成25年度も引き継ぎ実施したい項目について、平成25年度欄に丸を記載している。

追加項目として、5ページにて記載の新規2項目、平成25年度も実施した方が良いと思われる4項目について検討しているが、その他項目も踏まえご意見を頂ければと思う。

※COPD、ロコモティブシンドロームについては本日配布資料を参照。

(以下、資料5を参照)

委員 次計画等との関連を踏まえた今後のスケジュールについて承知した。

平成25年度実施のアンケートについて、必要項目を事務局から挙げていただいたが、その他項目も含めてご意見頂きたい。

平成25年度のアンケート発送予定件数は何件か。また資料5の太字記載は何か。

事務局 平成24年度と同件数で3,000件を予定している。太字については総合計画で毎年評価を出しているため、平成25年度も実施する項目である。

委員 1ページの問10について、平成24年度実施の枝番号の問10-2等は問わないということか。回答者が回答すべき項目を抜かしてしまうことの無いように、設問の配置順の配慮や、必要であれば説明書きを記載するように作成いただきたい。

事務局 資料5の問10の枝番号1から4は、平成25年度も同様に実施する設問である。回答のしやすい配置等、引き続き検討していきたい。

委員 ロコモティブシンドロームについて、運動の項目に記載した方が市民が分かりやすいのではないか。

また、クロス集計で、認知度だけではなく65歳以上の活動状況がある程

度評価できるのではないか。

委員 より有効な内容となるような設問配置や説明書きを加える等、工夫をしていただきたい。

委員 3ページの口の健康に係る設問について、平成25年度も実施していただきたい。

委員 4ページの医療に係る設問について、平成24年度アンケートで実施しているので、平成25年度は実施しないということか。

事務局 空欄を不要項目と考えているのではなく、平成25年度実施が必要な基本項目についてあげているものである。

委員 資料3の4ページの下部に記載の「ソーシャルキャピタル」は、5ページの間35・36の元気いっぱいサポーター事業が該当するのではないか。もしも先取りするならば、この言葉の認知を問う設問も実施してみてもどうか。
さらに東京都の指標にあるが、世代間の交流を深めるにはどうしたらいいか等の設問も検討頂ければと思う。

委員 既存事業の元気いっぱいサポーターにも関連し、都の指標も盛り込むことができるので、今のご意見を検討ください。

委員 資料4については、以上でよろしいでしょうか。
また会議終了以降もご意見ありましたら、事務局へお願いします。